

一般演題 F 腫瘍の診断一般

118. ^{67}Ga による胸部シンチグラフィの経験

群馬大学 放射線科

小池 脩夫 加藤 敏郎 新部 英男
伊藤 進 細野 紀一 鯉目 一郎

昭和48年5月～49年2月に施行した ^{67}Ga によるシンチグラフィの中、胸部を対象とした45例について述べる。 $^{67}\text{Ga-citrate}$ (又は *malate*) 1～2 mCi 静注後48時間又は72時間で検査した。日立ホールボディースキャナ又はシンチカメラ使用。

肝及び健常肺野のRI集積を基準にして、肝以上(≡)、肝と同程度(≡)、肺野以上(+), 肺野と同程度(±)及び、肺野以下(-)に分けて判定。

1) 照射前に施行した肺癌14例では、(≡)2一中1例は併存した肺炎巣への集積一, (≡)5, (+)5で(±)は2であった。(+)以上を陽性とする、原発巣の陽性率は11/13=84.5%。シンチグラム所見はX線上の腫瘍陰影と一致し、臨床診断を補強すると共に、治療計画に上寄する所が大きかった。

2) 照射後6月以後に施行した肺癌12例中8例(66.6%)では明らかな集積を認め、一(≡)2, (≡)4, (+)2一再発と判断し再照射した。他の4例の原発巣部位は何れも(±)であった。肺癌 follow-up に有用な検査である。

3) 照射開始後又は終了直後(照射線量500～6,000rads)に施行した肺癌18例では、(≡)3, (≡)7, (+)5, (±)3であった。(15/18=83.5%) 照射前後に施行した2例では、何れも照射後に集積の減少を認めた。

肺癌について、集積の程度は病巣の大きさ(厚さ)に平行すると言える。陽性集積の限界は大畧3cmと考える。

4) 肺癌以外の疾患では、サルコイドーシスの1例に(≡)、包裹性肋膜炎と考えられる1例で、被包の部分に(≡)、縦隔腫瘍3例で(±)。

シンチグラム全般について、72時間の像が48時間より良好。citrate と malate では差がなかった。

119. 縦隔病変の $^{67}\text{Ga-citrate}$ シンチグラフィ

イー

京都大学 放射線科及び放射線部

坂本 力 浜本 研 森 徹
小鳥 輝男 高坂 唯子 藤田 透
鳥塚 莞爾

縦隔病変に対する $^{67}\text{Ga-citrate}$ シンチグラフィの臨床上的有用性について検討を行なった結果を報告する。

対象は胸腺腫瘍8例、サルコイドーシス10例、肺門及び縦隔病巣を主体とする縦隔型肺癌20例、食道癌5例とその他の諸疾患の計65例である。方法はこれらに $^{67}\text{Ga-citrate}$ 1～2 mCi を静注投与して72時間後に Pho/Gamma III シンチカメラを用いてシンチグラムを作成した。病巣部での集積度を高度、中等度、軽度、異常集積を認めないものの4段階に分類して集積像を判定した。

胸腺腫瘍8例中4例が高度、3例が中等度の集積を示し、異常集積を認めぬ1例は胸腺嚢腫であった。サルコイドーシスでは10例中8例が高度、2例が中等度集積を認め、これらのうち経過観察をなし得たものでは病勢により摂取程度に差を認めた。肺癌では組織型によって集積に差を認め、燕麦細胞癌、未分化癌では全例高度の集積を示した。食道癌は4例が軽度の集積を示した。悪性リンパ腫は全例が高度乃至中等度の摂取を示し、その他原発巣不明未分化癌と炎症性リンパ腫で高度、リンパ嚢腫、精上皮腫では集積がなかった。

〔考按および結語〕1) 縦隔腫瘍で奇形腫について多い胸腺腫瘍は嚢腫を除き高度集積を示すものが多く、 $^{67}\text{Ga-citrate}$ が診断に有用である。2) 縦隔型肺癌は従来の報告より高い陽性率を示したが、組織型による $^{67}\text{Ga-citrate}$ の集積度の差が影響していると思われる。3) サルコイドーシスは全例陽性であったが病期により集積程度に差が認められる。4) 縦隔病変に対して $^{67}\text{Ga-citrate}$ シンチグラムは病巣の拡がりやを決定することが可能である。